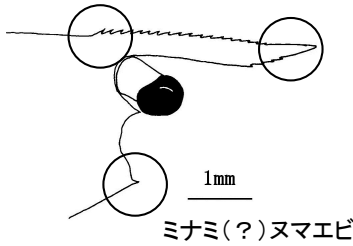


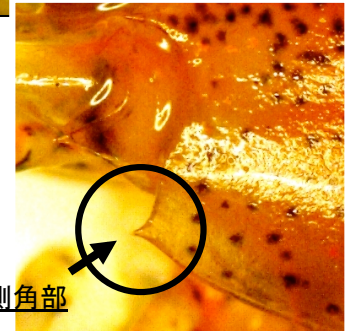
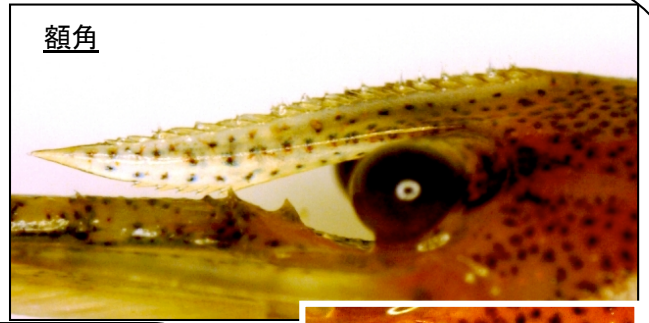
ヌマエビ科 カワリヌマエビ属



額角は真っ直ぐかやや下向きに反る。前側角は尖る。

上縁は8~20本の歯が並びその内頭胸甲上に1~4歯ある。先端付近に歯は無い。下端には0~9本歯がある。

額角



前側角部

前角側部前縁が角張り棘状に見える

ヌマエビ科の中で比較的大きな卵を産み幼生(ゾエア)期を経ないで生育することでカワリヌマエビ属と分類されている純淡水エビです。日本には数種生息しているようですが、本州に限ればミナミヌマエビがその名のとおり南西部以南に分布するとされています。

しかし、千葉県にも生息しています???ですね。

実は釣りの撒き餌として国内や海外(韓国、中国等)から持ち込まれたものが県内で繁殖した可能性が否定できないのです。評価が難しい種ですが、それだけに県内の分布など詳細な情報が必要と考えられます。

純淡水エビですのでスジエビと生息環境が重なる可能性大です。スジエビを捕まえた時にこのエビも捕まるかも知れません。

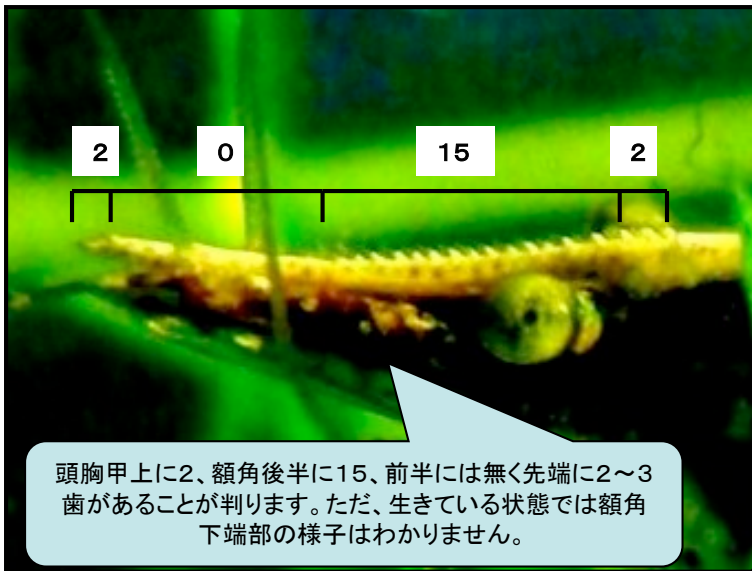
デジタルカメラで記録する

最近のデジタルカメラのは家庭用でもかなりの性能があるので、接写機能を使えば有る程度種類が特定できる記録が残せます。写り具合も現場で確認できますし悪ければ何度でも撮し直し出来ますので便利です。特にエビの額角の鋸歯の数や位置などの確認にはルーペよりも優れていると思います。

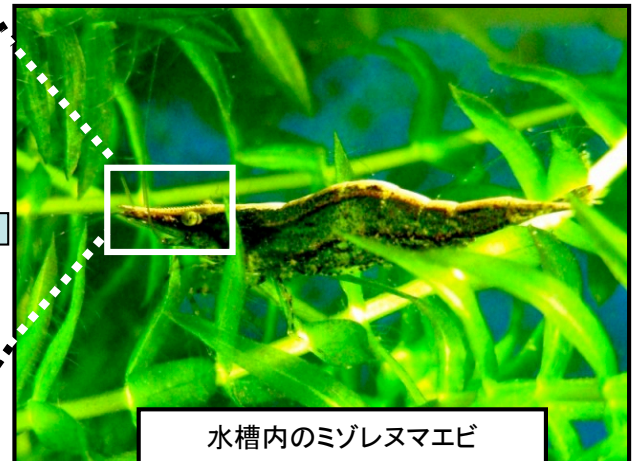
下の写真はカメラ任せの自動露出で撮影したものですので必ずしもピンポイントで目的位置にフォーカスされてはいませんが、パソコンのディスプレイ上では更に拡大観察できますので鋸歯数程度は把握できました。



ヤマトヌマエビの脱皮殻の額角付近。眼やその他の部位に邪魔されないで額角の特徴がわかる。(接写写真を部分拡大)



頭胸甲上に2、額角後半に15、前半には無く先端に2~3歯があることが判ります。ただ、生きている状態では額角下端部の様子はわかりません。



水槽内のミズレヌマエビ